

1. 授業事例

Ms. Valerie Ziegler ; “Battle of Lexington” の授業記録

(2012年9月10日, Abraham Lincoln High School, 第11学年, 16~17歳)

**Ziegler 先生**：さて、今日は、アメリカ独立革命に焦点をあてます。そして今日の歴史的疑問と解釈および作文のテーマは、「誰が最初に発砲したか？」です。大変興味深いことに、これは歴史学者が論争を繰り広げている問題で、彼らはアメリカ独立革命を始めたのは誰か議論しています。最初に発砲したのは誰か？そして実はたくさんの歴史学者が、発砲があった場所について議論しています。そこで自分のところが革命の始まりだと主張したがつている都市がたくさんあります。なぜなら大きなメリットがあるからです。そうでしょう？特に観光産業の人は、「アメリカ独立革命が始まったのは我々の町です」と言えるわけです。



それじゃあ今日は一次資料をいくつか検討してから、さらに2つの手法を使うことにします。私たちは精読（close reading）と裏付け作業（corroboration）の練習を行います。ではいくつかノートを取ってからその歴史資料の検討を始めましょう。いいですか？

ではこの革命の学習に入る前に 2, 3 確認しておきましょう。じゃあ、この地図を覚えてるかしら。イギリスがこの土地を獲得したことを示すのはどんなできごとでしたか？イギリスとフランスの間にどんなできごとがありましたか？



**生徒（ハンナ）**：7年戦争です。

**Ziegler 先生**：その通り。7年戦争です。フレンチ・インディアン戦争ともいいますね。さあ彼らがこの土地を手に入れたことを思い出してください。ですからこれはいいことのように思えますよね？えー、ここであることが起きましたが、彼らの方針を変えました。これは必ずメモしておいてください。彼らはこの土地をすべて手に入れました。そこには住んでいるのは誰ですか？インディアンですね？アメリカ先住民がいて、イギリスの入植者はそこへ移住したかったのですが、アメリカ先住民がいたので問題が起きました。争いがたくさん起きたことは知っていますよね。それでイギリスは、お金を費やしたくないという判断を下します。そうですよね。この人たちを守るために。だからこれを可決しました。さてと、こちら側に来てそれについて話しましょう。今日話していることがすべて、この革命の学習だということを忘れないでくださいね。

フレンチ・インディアン戦争後、イギリスは軍隊をここに残します。それがなぜ問題なのか？つまり、彼らは軍隊に、いわゆる営舎を何度も提供しなければならないし、そうでなくても軍隊がいれば自分の家に住ませなければならなかったのです。そこで暮らす生活費を出さなければならないのです。みんなそれが嫌でした。軍隊を泊めたくなかった・・・、軍隊を自分の家にね。軍隊に住まいを提供したり食費を払ったりしたくありません。だからそれが嫌でした。また、イギリスの負債をたくさん返済しなければならないということも気に入りませんでした。最後に、そして一番重要なことですが、1763年宣言、これが嫌でした。これは、地図上に線を引き、入植者にその線を越えてはならないと告げるものです。イギリス政府は、入植者を守る費用を出さないようにすると決めます。彼らはアメリカ先住民との争いに煩わされたくありません。戦争の心配をしたくないのです。紛争に悩まされたくないので、入植者に線を越えてはならないと命じます。これらすべてのことがフレンチ・インディアン戦争の結果として起きます。誰かアパラチア山脈がどこにあるか

**Britain's Changing Policy on the Colonies**

- Britain sends troops to the colonies
- Colonies help solve Britain's \$ problems
- Proclamation of 1763
  - Colonists could not settle west of the Appalachian Mountains
  - Prevent war with Native Americans

知ってる？

生徒（アンソニー）：東海岸です。

Ziegler 先生：ケリー，どこにあるかわかる？

生徒（ケリー）：東海岸です。

Ziegler 先生：東海岸にあると言ってもいいでしょう。ケンタッキーのあたりを通っていますよね。カロライナを通過してます。実はアパラチア山道をハイキングすることもできます。全部歩くには3カ月ぐらいかかると思っています。

生徒：ほんとに？

Ziegler 先生：ほんとです。とっても長いハイキングですが，たくさんの人がいわば険しいアメリカといったものを見ることができます。アパラチア山脈の多くの地域では，今なお電気や水道がありません。そうした地域に住む人々は，厳しい暮らしをしています。

はい，いいですね。で，その宣言の地図がこれです。これが全部入植地で，イギリス政府はその線をここに引き，この仮想ライン，そしてこれを越えてはいけないと命令します。人々はなぜこれに腹を立てたと思いますか？

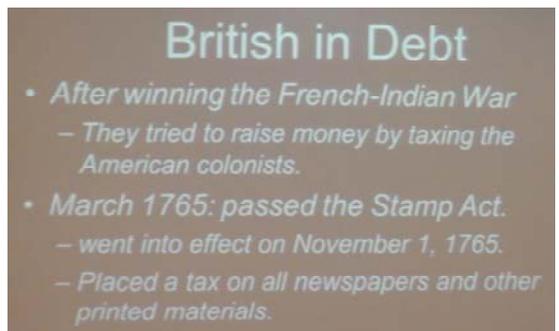
生徒（ティノ）：ここを自分のものにできるのですか？

Ziegler 先生：そうです。そこに・・・，こっちには土地があるんです。それが見えるんです。窓の外を見れば土地が見えるのに，線を越えてはならないと言われます。だからそこへ行きたいのよ。資源のためばかりじゃありません。他には何があるのでしょうか。

生徒：水を手に入れるため。

Ziegler 先生：水？ 自分の家ではなくて，そこに引っ越したい場合？ その通りです。そうでしょうか？ つまり目の前にずっと土地が見えるのに，イギリス政府はその線を越えてはならないと言う。だから，こういったことが人々が不満を持つようになった理由です。イギリスの軍隊がそこにいます。彼らが自分達は越えられない線を越えたので，彼らも越え始めました。

そしてこれが実際に戦争に入る前の最後の部分です。イギリスは財政危機に陥ったのでお金を集めなければなりません。どのようにして集めるのか？ 彼らは植民地に課税するのです。さあ，これの，アメリカ独立革命に関するコメントブックを書いてもらおうと言いましたね。印紙法のようなこの事柄について，いくつか見てみましょう。印紙法は，あらゆる原料のすべての紙に対する税金です。ですから，手紙を送ろうと思ったとき，またトランプや新聞も，お金を払ってこの印紙・・・，古めかしい切手のような印紙を買わなければなりません。人々はこれに不満を募らせました。ですからこれが，アメリカ独立革命を引き起こすたくさんのできごとの1つです。



《7:00》

アメリカ独立革命について中学校で勉強したことからは何を覚えていますか。何かありますか？

生徒：フランス人が彼らを助きました。

Ziegler 先生：フランス人が助けた？ 大事な部分ですね。そう，その通りです。他に何か覚えていますか？

生徒：ジョージ・ワシントンです。

Ziegler 先生：ジョージ・ワシントン。

生徒：ポール・リビアです。

Ziegler 先生：ポール・リビア。いいですね。これらはまさにアメリカの象徴ですね。私たちの記憶に染みついているものです。ジョージ・ワシントン，



ポール・リビア、お茶・・・、ボストン茶会事件、いいですね。そして今日は、実は、誰が最初に発砲したかだけでなく、アメリカ独立革命から私たちが思い描いたり、思い浮かべたりするイメージについて、それがアメリカ独立革命の描写の中で真実かどうか、本当に正確なのかどうかを考えたいと思います。

印紙法などについては、週の後半でもう一度とりあげます。今はこういったことがアメリカ独立革命を招いたと理解してください。軍隊への営舎の提供、1763年宣言、印紙法のような税金などです。

さて、今日の本題につながるのがこれ、レキシントンの戦いです。これが革命の契機になります。この日付を・・・、今日の一次資料の検討にはとても大切なのでこの日付は書いておいてください。日付には幅あります。そう、アメリカ独立革命は1775年から1783年まで続きました。繰り返しますが、今日は裏付け（corroboration）を探しますから、この間に起きているかどうか判断するために、それらの日付を調べて確認したいと思います。1775年から1783年です。

そして今日最後にノートするのは私たちの戦い（国内の戦争）です。つまり歴史学者が合意できたことの1つは、この日にレキシントンとコンコードで何かが起きたということです。これを戦闘と呼ぶ人もいるし、戦争の始まりと呼ぶ人もいるし、小競り合いと呼ぶ人もいるし、撃ち合いがあったと言う人もいるので、私たちはこの点を議論しますが、歴史学者は全員、それがこの日にここで起きたということに同意しています。

それが終わったらノートを片付けちゃっていいですよ。精読（close reading）に関するプリントを出してください。確か青い紙だと思います。もしなかったら、取ってきていいわよ・・・、そう、青いポスター、自分のと同じテーブルの人にも。 《10:00》

#### 【生徒たちはグループディスカッションの準備をする。】

**Ziegler 先生：**そう。それを出して、そう。

というわけで、まずは精読（close reading）に取り組みます。誰か1つ目の、私たちが・・・、私たちがいつも精読する質問を読んでもらえるかな？ ありがとうカーラ。

**生徒（カーラ）：**著者はどんな主張をしていますか？

**Ziegler 先生：**よくできました。著者はどんな主張をしていますか？ ハンナ、次を読んでもらえる？

**生徒（ハンナ）：**著者はどんな根拠に基づいてその主張を裏づけていますか？

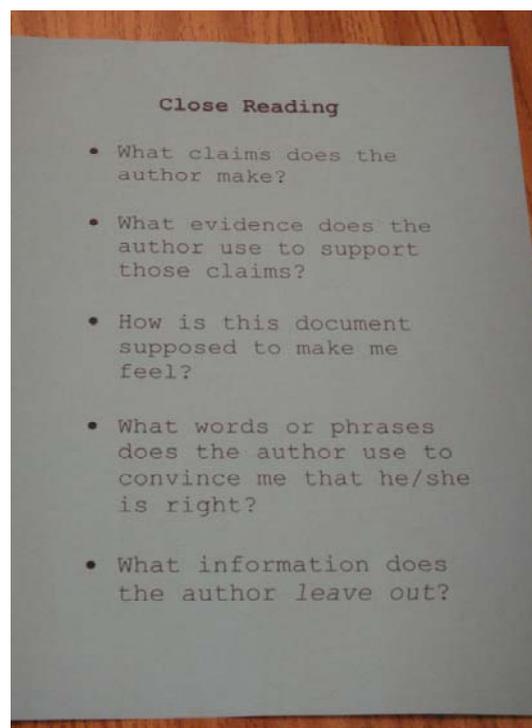
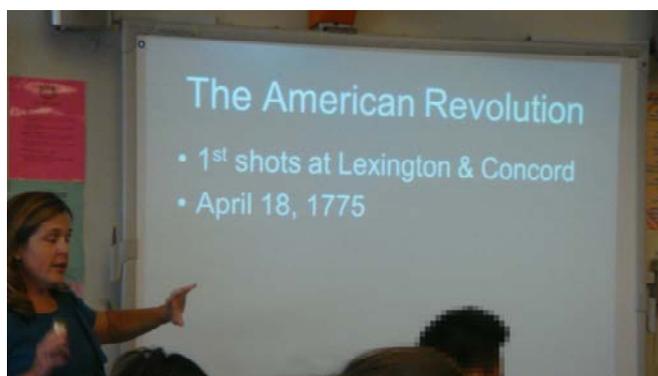
**Ziegler 先生：**著者はどんな根拠に基づいているか？ はい結構です。これがたくさん出てくる大事なものです。彼らはどんな根拠に基づいているか？ アンソニー、次を読んでもらえる？

**生徒（アンソニー）：**はい。この文書は私にどんなことを感じさせるものですか？

**Ziegler 先生：**この文書によってどんなことを感じますか？ ですから、私たちが読んだ文書についてそこまで考えてください。いいですか？ ローラ、次を読んでください。

**生徒（ローラ）：**著者は自分が正しいと思わせるためにどんな言葉や表現を使っていますか？

**Ziegler 先生：**どんな言葉や表現でしょうか？ じゃあ今日はこれらの文書の一部を調べて、言葉や言葉の選択を探しましょう。じゃあアシュレー、最後の質問を読んでもらえる？ ごめ



んなさい、あなたよ。

生徒 (アシュレー) : 著者が除外したのはどんな情報ですか？

Ziegler 先生 : はい、よろしい。著者が除外したのはどんな情報ですか？ 結構です。 えー、この前この精読 (close reading) をした時に気づいたのですが、裏付け (corroboration) を探していた人は数人で、みんながやっていたのは情報源にマーカーを塗ることだけでした。何が足りなかったのかな？ 私がみんなにやってほしいことは何でしょうか？

生徒 : コメントです。

Ziegler 先生 : コメント、ですよね。日付がどうなっているでしょうか？ この人は誰でしょうか？ 彼らはなぜそれを書いているのでしょうか？

【先生がプリントを配付】 《12:00》

そこで、これから、最初の文書でそれを練習したいと思います。それから精読 (close reading) を行います。あの、ここに枠がいくつかありますよね。じゃあこの文書の裏付け (corroboration) 探しをするためにマーカーを塗って、そして枠に書き込んでください。それから精読をやります。

Ziegler 先生 : オケー。じゃあマーカーを持って、この文書の裏付け (corroboration) 探しをどんどん始めてください。枠が 2 つありますね。この文書から裏付けを探しながら、この枠に私が何を書いて欲しいと思っているか考えてください。

【グループディスカッション開始】 《12:50》

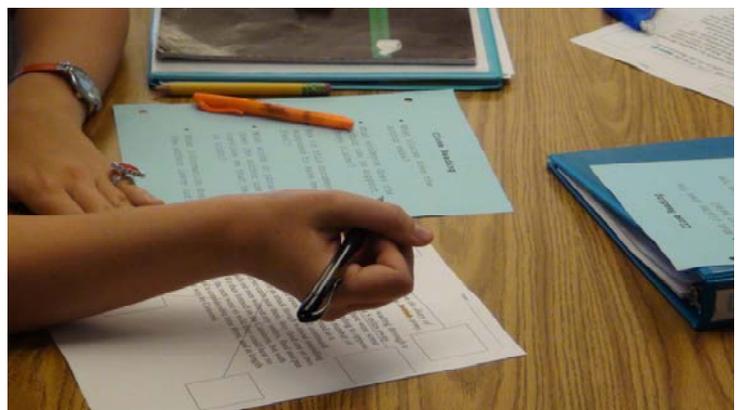
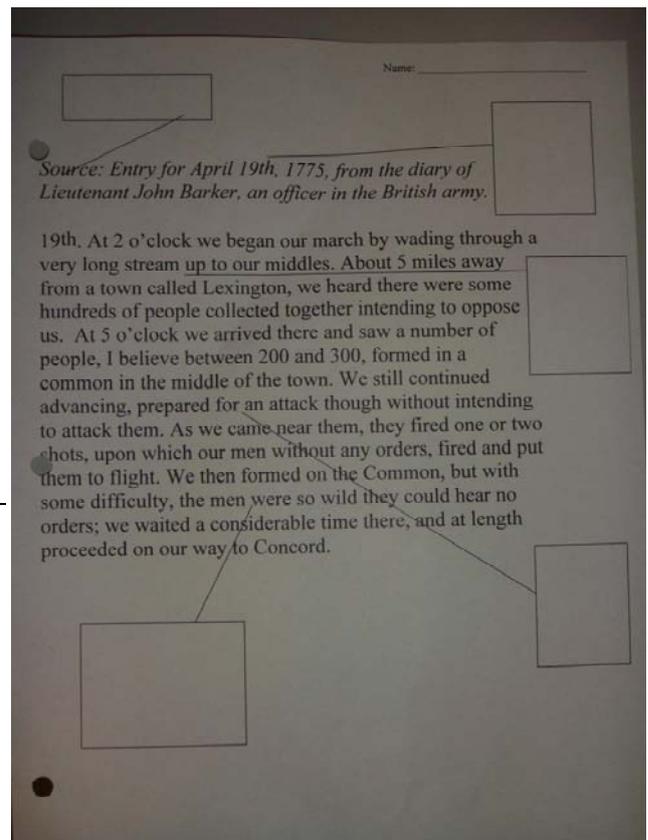
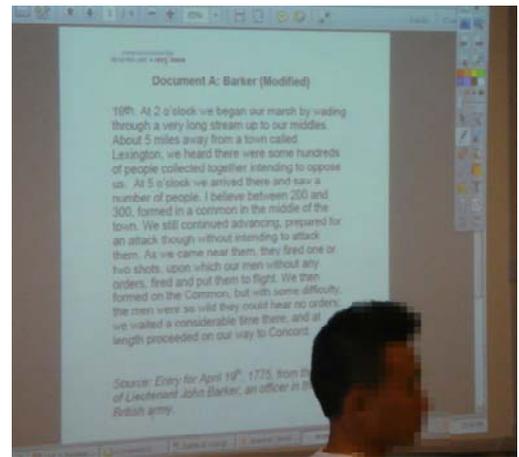
〈机間巡視中の聞き取れた会話〉

Ziegler 先生 : そう、裏付け (corroboration) 探しにくっついている 2 つの枠に書き込んでください。その枠に書いて欲しいと思っているのは何だと思えますか？ えーと、ここに枠があるのがわかるかしら。それからこっちにもう 1 つあります。この枠に書いて欲しいのは何だと思えますか？ さっき書いたノートを見るといいかもしれません。はい、何でしょう？

生徒 : ここに書くんですね？

Ziegler 先生 : 何でもいいです。裏付け (corroboration) 探しで探しているものが何かそこにありますか？

そう、ここに書きましょう。はい、いいですね。いいです。おや、今書いたことはなぜダメなのかな？ ああ、アンソニー、そうじゃなくて、読むんじゃなくて裏付け探し、裏付け探しよ。そこまで。そこで止めて。裏付けを探すだけよ。裏付けの枠に書き込むだけです。まだ読んではいけません。読まないで。で、ここでは他に何をするの？ 枠が 2 つあるから、裏付け探しで書けることを 2 つ考えるのよ。



【グループディスカッション終了】

《14:25》

**Ziegler 先生**：はい、ありがとう。歴史に詳しいジョン、これらの日付に関連して、何を書きましたか？

**生徒 (ジョン)**：それが起きたのは次の日です。

**Ziegler 先生**：これは次の日に起きました。なぜそれが大切なのでしょう？ これは 100 年後に起きましたか？ 50 年後に起きましたか？ 2 カ月後に起きましたか？ いえ、これは戦いの翌日に起きました。歴史学者にとってなぜこれが重要なんでしょうか？

**生徒**：より正確です。

**生徒**：記憶が新しい。

**Ziegler 先生**：そのできごとを覚えているからより正確だという可能性がありますね。いいですか？ ではこれは翌日ですね？ じゃあ記憶は確かでしょうね。そのできごとを覚えているのね。さて、誰かが言ってたけど、この文書は何ですか？

**生徒 (ジョン)**：日記です。

**Ziegler 先生**：これは一次資料の文書です。それをこの枠に書くはずだったのよ。そして具体的に言うとその文書は何ですか？

**生徒**：日記です。

**Ziegler 先生**：日記です。なぜこれに意味があるんでしょう？

**生徒**：個人的な話だからです。

**Ziegler 先生**：個人的な話ですね。じゃあその辺をよく考えましょう。彼は戦いの後、本当に帰ったのかしら？ その時は、「拝啓日記さん、そう私見たのよ」みたいな感じになって。ですよね。彼が日記を書く理由は何が考えられますか？

**生徒**：お金？

**生徒 (ハンナ)**：もしかしたら報告のため。報告するため。

**Ziegler 先生**：何が起きたか報告するため。そうね。何が起きたか報告するために、これを誰かに送る必要があったのかもしれない。他にはどんな理由があるかしら？

**生徒**：お金。

**Ziegler 先生**：大事な人を亡くしたのかもしれない。はい、ダニエル？

**生徒 (ダニエル)**：記録のため。そうすれば後でこれを思い出せます。

**Ziegler 先生**：つまり振り返って起きたことを確かめることができます。

**生徒 (ダニエル)**：どこかで話す機会がある。

**Ziegler 先生**：どこかで話す機会がある、かもしれませんね。じゃあ、これらすべてがこれを書いた理由かもしれません。彼は部隊が必要だったのかもしれない。もしかしたら彼は、私たちが考えていることを…、誰が戦争を始めたかを伝えるつもりかもしれません。それは相手側だったと証明したいのかもしれませんが。だから彼がなぜ書いたのか考えなければなりません。そして一番大事なこと、彼は誰でしょう？

**生徒**：大尉です。

**Ziegler 先生**：どっちの軍？

**生徒**：イギリス軍。

**Ziegler 先生**：なぜわかるの？

**生徒**：彼の見た目です。

**Ziegler 先生**：彼はイギリス人。ですよね。それで、私たちはイギリスが戦争を始めたのか、入植者が戦争を始めたのかについて話しています。この人は何と言うと思いますか？

**生徒**：入植者です。

**Ziegler 先生**：彼らですね？ じゃあそれを読む前に、私たちの想定は、彼はイギリス人で、これを書いたのは翌日で、これを書いたのは彼なので、彼は恐らく入植者のせいにするつもりだろうということです。いいですね？

じゃあ、誰かみたいにただ何行かマーカーで塗りつぶしただけじゃなくて、私が今どんな風にやったか皆さんわかりますか？ よろしい。ここにメモを取りました。いいですか？ みんなにやって欲しいのがこれです。はい。さて、この文書のここ、文書のここに枠があるのがわかりますね？ これをていねいに読んで精読 (close reading) を行い、メモを取るのにこの枠を使ってもらいたいと思います。そしてメモを取ったことをいくつか話し合います。じゃあ今から始めて、残りもみんなにやってもらいます。じゃあ最初のここから始めましょう。えー 19 世紀。これは何ですか？ そう、日付です。そうですね？ たぶん彼は日記を書き始めたので、ここに劇的な戦いを書く必要があったのでしょう。劇的な戦いを書くなら、これを…

《17:00》

生徒：はい、お願いします。

**Ziegler 先生**：いいでしょう。それとももしかしたら彼は、あの、つまり彼は要塞の中において、「2 時だ」みたいな感じ。どう？ 劇的でしょう？ みんなはもしかしてイギリス人かもしれないけど。

「2 時に私たちは進軍を開始した」。えー「2 時に、私たちは胴まで浸かって非常に長い水路を歩いて進軍を開始した。」 ええと、精読 (close reading) の中で、これが私にどんなことを感じさせるものなのかについて触れました。彼は何を・・・、彼はどんなことを私たちに伝えてありますか？ 自分たちは進軍していて、それから何をしていますか？

生徒 (ケリー)：誇り。

**Ziegler 先生**：彼は誇りを感じている。他には？ では私は何の中を進軍していますか？

生徒 (ケリー)：泥です。

生徒：水。

生徒 (ティノ)：すごく長い川。

**Ziegler 先生**：泥と水。それがここまで (胸のあたりを指す)。そうですね？ だから私はこの状況について考えています。はい。で、彼は劣悪な状況を説明しようとしています。そしてそれは・・・、それは少し危険なようですね？ そして彼らは前へ進んでいく。ですからたぶん彼だけじゃなく、たぶん複数の人数です。ですよね？ ここには大勢の軍隊がいると言ってもいいでしょう。

「レキシントンという町から約 5 マイル離れたところに数百人の人々が集まっていて、我々を非難しようとしていると聞いた。」 いいですか？ ですから彼は・・・、彼は、何百人もの人がそこで彼らを待っていることを聞いたと言いました。

この疑問を議論してみましょう。自分で考えてもいいですよ？ 彼はどんな根拠をあげていますか？ 彼は何百と言っているだけです。それをほんとに信じますか？ そうでしょう？ でたらめかもしれません？ 実際にはわかりません。彼は何百と言っているだけです。それは 500 ですか 300 ですか？ わかりません。

「5 時、我々は到着し、たくさんの人を見た」。さあ、彼ははっきりさせました。「200 から 300 の間だと思う。」 彼が使った言葉から見て、その文章のどんな言葉が目につきますか？

生徒：「思う。」 (という表現)

**Ziegler 先生**：「思う。」ですね？ それをみて、どんなことを感じますか？

生徒：確信がない。

**Ziegler 先生**：わかりません。どちらとも取れます。確信がないのかもしれない。わかりません。もし誰かが私に、昨日公園やそういった場所に人が何人いたか聞いたとします。私はちゃんと数が言えるかわかりません。でも彼は正確にはわからないということを認めているのです。そうでしょう？ 彼は推測しているのです。

「彼らは 200 から 300 人で、町の真ん中の広場に整列していた。」 ではここで止めます。テーブルに向かって先を読んで、この文書の中で他にマーカーを塗るものを見つけてください。じゃあ精読 (close reading) 用の質問を使って、この文書をよく読んでください。自分のテーブルで声に出してね。何に印をつけるか考えて。そうね、実際に軍隊調の声で読んでもいいわ。

【グループディスカッション開始】

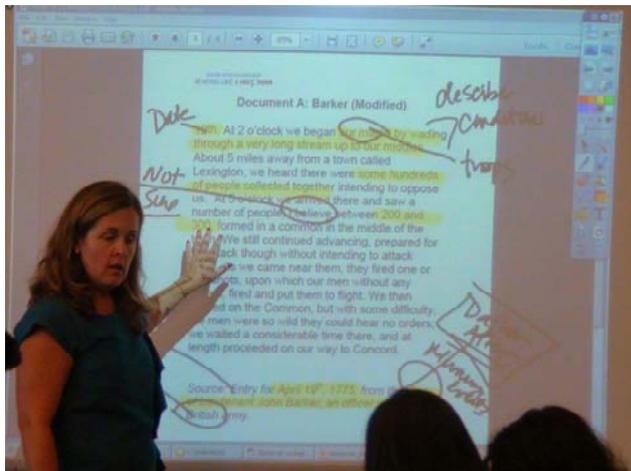
《19:45》

#### 〈机間巡視中の聞き取れた会話〉

**Ziegler 先生**：そう、マーキングを続けてるのね・・・、とてもいいですよ。続けて読んでください。そう、自分たちのテーブルの誰かに読んでもらうのもいいですね。イギリス風アクセントでも、そうじゃなくてもいいわよ。

じゃあ彼が攻撃に備えていると言っているのはどう思いますか？ そう、彼らは多少の攻撃があると想定していたのね。

全体を捉えること、それが今日の課題です。日付があって、そして何が起きたか・・・、それから何が起きたのか？



皆さん終わりましたか？

生徒：はいっ。

Ziegler 先生：そっちは終わった？

### 【グループディスカッション終了】

《23:00》

Ziegler 先生：はい結構です。すばらしい歴史的議論が行われましたね。マーカーを塗ってコメントを付けたものを誰か発表してくれませんか？ 誰かこっちへ来て発表してください。まとめてなくてもいいですよ。何でもいいんですよ、それがおもしろいの。

生徒（ケリー）：やります。

Ziegler 先生：はい。いいわ。じゃあ私の後に続けて重要な事実を書いてください。

生徒（ケリー）：あの…、男たち（兵士）はとても興奮していて命令が聞こえないと言っています。それは実際に発砲するためのある意味口実のように聞こえます。なぜなら、命令が一切聞こえなかったと彼がみんなをかばっているからです。彼らが、命令があったとしてもそれを無視したとかそういうことではないですか？

Ziegler 先生：じゃあその部分に基づいてこの文書を使用しますか？

生徒：しません。

Ziegler 先生：つまり、ここには書くことが 2 つあるというわけですね？ 彼女はほんとにいいことを指摘しましたね？ これを信用しますか？ そうするとそれは口実にはなりません。

エレナ、あなたはとてもいい点を指摘しましたね。あなたが言ったことを発表してもらえます？

生徒（エレナ）：わかりました。

Ziegler 先生：それに、この文書に関連してあなたのテーブルで話し合ったことを説明してください。残りにマーカーを塗るならマーカーをつかんでください。ペンの隣よ。そうそう。

生徒（エレナ）：はい。

Ziegler 先生：じゃあ大きな声で、君たちは何を話し合ったの？

生徒（エレナ）：えーと、どれだったかな。ああそうだ。そう、わかった、つまり、彼らは攻撃に備えていたけど攻撃するつもりはなかったと書いてあります。だから、最初イギリス人（イギリス軍）は入植者が彼らを攻撃してくるのを待っていましたが、攻撃しかえすつもりはありませんでした。でも、その数行あとで、1～2 発銃が発砲されるのを聞いて仲間が命令を聞かずに発砲し始めたと言っていて、ちょっと矛盾があるみたいです。つまり、攻撃するつもりはないと言いながら攻撃しに行くような感じです。

Ziegler 先生：いいですね。つまりここがポイントで、彼らは戦うために来たような感じがしますか？

生徒：はい。

Ziegler 先生：それを言いたかった。そうなんです。攻撃するつもりでやってきましたよね？ で戦ったのかな？

生徒：はい。

Ziegler 先生：そうですね。じゃあハンナ、あなたが指摘したことが 1 つあったわね。最後はどうなったかな？

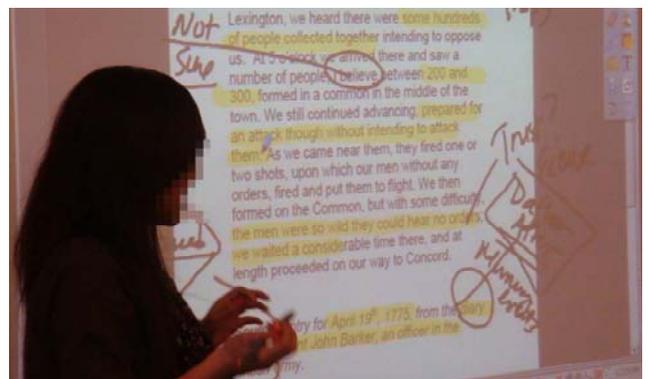
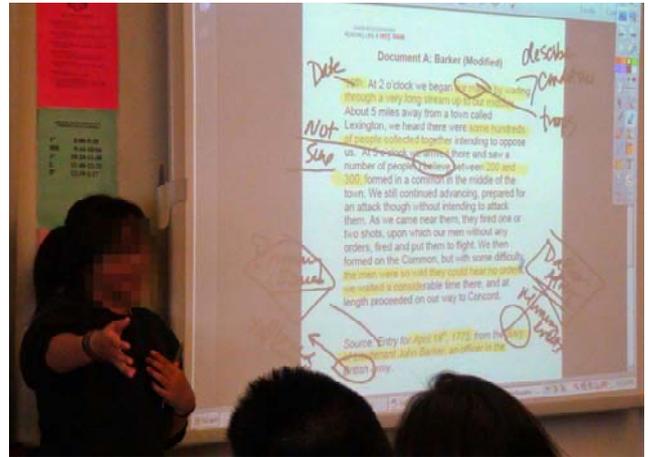
そう、発砲があったことはわかりました。この文書によると誰が最初に発砲したのかな？

生徒：入植者です。

Ziegler 先生：入植者が最初に発砲した。で、それはどこに書いてありますか？ 発砲…、彼らが発砲した。つまり、この授業の歴史的問題は誰が最初に発砲したかです。この文書によると誰が最初に発砲しましたか？

生徒：入植者が発砲しました。

Ziegler 先生：入植者が発砲しました。そしてハンナ、あなたは何て言った？ 君たちはさっきそのことを話し



合っていましたね。えーと、彼らは発砲し始めて、それからどうなった？

生徒 (ハンナ)：彼らは逃げます。

Ziegler 先生：彼らは逃げます。そしてこれがこのお話しのほんとに大事な部分です。逃げたのは入植者ですか？  
というのは、話し合ってきたことに関する画像をいくつか見せたいと思ってます。いいですか？ でもこの資料からは、入植者が最初に発砲して、イギリス軍が撃ち返して、それから入植者が逃げたということが言えますね。じゃあ、レキシントンの戦いで何が起きたか説明するにはこれで十分ですか？

生徒：いいえ。

Ziegler 先生：もちろんそうですね。何が必要ですか？

生徒：別の資料です。

Ziegler 先生：別の資料。誰の資料が欲しいですか？

生徒：入植者です。

Ziegler 先生：まあ、みんななんて頭がいいの。そうです。皆さんにもうひとつの資料を配ります。 《26:30》

じゃあ、入植者が何て言っているか見てみましょう。これを読む前に。あー、ティノ、これを読む前に、入植者の考えについて話しましょう。誰だと・・・、彼らは戦争を始めたのは誰だと思っていますか？

生徒：イギリス軍です。

Ziegler 先生：ティノ、誰だと思う？

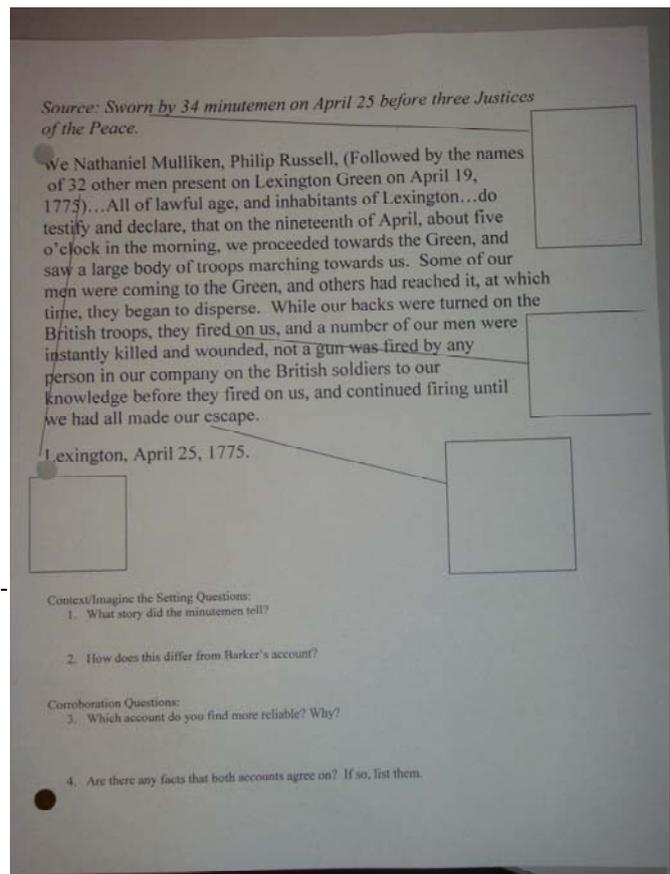
生徒 (ティノ)：この人たち・・・、イギリス軍です。

Ziegler 先生：イギリス軍。なぜそう思うのですか？

なぜなら、それが彼らの考え方だからですね？

じゃあ、そういう意味で彼らはイギリス人を責めますね。それで彼らはイギリス人が戦争を始めたと言うでしょう。じゃあもう一度、この文書から裏付け (corroboration) を探してください。

【グループディスカッション開始】 《27:00》



〈机間巡視中の聞き取れた会話〉

Ziegler 先生：えー、マーカーを塗るだけでなく裏付け (corroboration) を探してくださいね。

そうです。彼らは軍隊です。彼らは入植者です。今すぐ覚えてね。記憶力がいいわね。ですからここで言いたいのは、これは入植者の軍隊だということですが、この情報源では何が異なっているかしら？

生徒：彼らは約 34 人です。

Ziegler 先生：彼らは 34 人、で、他には？ それと具体的どんな言葉を使っているかしら？ それでどんなことが想像できるかしら？ もし何かにかけて誓わなければいけない場合、あなたならどうする？ そう、そう。

入植者の軍隊と一緒にね。えー、民兵 (minute man) という言葉出てきたら、それは入植者の軍隊です。彼らはすぐに (in a minute) 用意できる決まった人たちだったからこう呼ばれました。いいですか？ 彼らは農民や労働者でした。

さて、情報探して何がわかった？

生徒 (アンソニー)：つまらない。

Ziegler 先生：それはなぜ重要な？ 彼らは困っているはずだから、何て言うと思う？ 可能性としては？ そう？ 彼らは対処すると言ったかもしれないけど、実は私たちはこの文書について知っています。私たちはこれがベンジャミン・フランクリンのところに行くことも知っています。でしょう？ だからこれを聴く人たち (傍聴者) もまったく異なってきます。それにそれがイギリスに行って裁判をして、イギリス軍に落ち度があるということを証明するとしたら、彼らは本当のことを言わないかもしれない

ということも考えられます。

生徒：彼らは否定すると思います。

Ziegler 先生：そうですね。そうね。否定しかねないわね。だからこれについては二通りあるわ。いいわね？ 信頼しているものに対して誓いを立てる。じゃあ、傍聴者ついて考えましょう。いいですか？  
えー、日付に印を付けた人はいないみたいね。

生徒：付けました。

Ziegler 先生：いいですね。日付についてはどうですか？

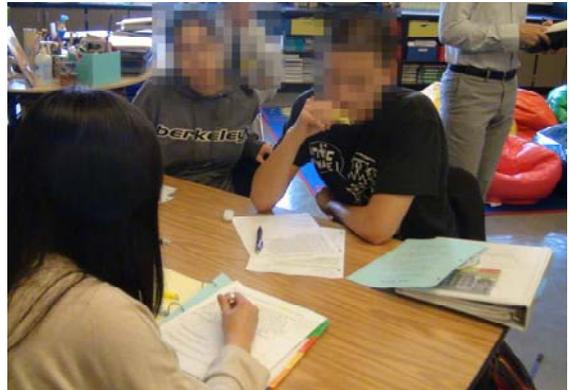
生徒：一週間で戻ります。

Ziegler 先生：一週間。悪くないわね。でも、最初に何かを始めた人に印を付けなきゃ。それとこれはどういう文書？

生徒：これは…。

Ziegler 先生：彼らは 34 人。いいですか？

いいですね。じゃあそれを書いたわね？ いいでしょう。でもまだ終わってないと思うわ。もっと情報源を見てください。裏付け (corroboration) 探して下さい、裏付け探し。



### 【グループディスカッション終了】

《30:00》

Ziegler 先生：じゃあ誰かこの裏付け (corroboration) 探しをしてもらえますか？ さあ、どうぞ。

生徒 (アーメン)：えーどうしよう。今印をつけようと思っていただけで、無理です。

Ziegler 先生：こっちへ来て裏付け (corroboration) 探しをして。いいから。アーメンが裏付け探しをします。話を聞いて、自分の見つけた裏付けと一致しているか確かめてください。

生徒 (アーメン)：えーと、僕はただ、その…。

生徒：下よ。

生徒 (アーメン)：ああ、ここだ。だいたい 5 時ごろ…。

Ziegler 先生：えーと、まだ文書の中身に入るのは止めましょう。まず裏付け (corroboration) 探しをします。戻って。消しゴムは使える？ いいわよ。じゃあもう一度やりましょう。

生徒 (アーメン)：えっ、僕に…、わかりました。

Ziegler 先生：まず裏付け (corroboration) 探しをしてほしいの。それから文書を検討します。

生徒 (アーメン)：わかりました。大丈夫です。

Ziegler 先生：そう。大丈夫よ。裏付け (corroboration) 探しよ。

生徒 (アーメン)：えーと、34 人の男たちが誓ったと書いてあって、それは 4 月 25 日のことでした。その日は一週間後、実際の…。

Ziegler 先生：ペンを持って印をつけてちょうだい？ そう。じゃあそれは一週間後。そして、この 34 人の民兵 (ミニットメン) が誓ったことがどうして重要なのかな？

生徒 (アーメン)：

あの、つまり…、34 人の兵士はみんな仲間なので、リーダーが説き伏せていたかもしれません。

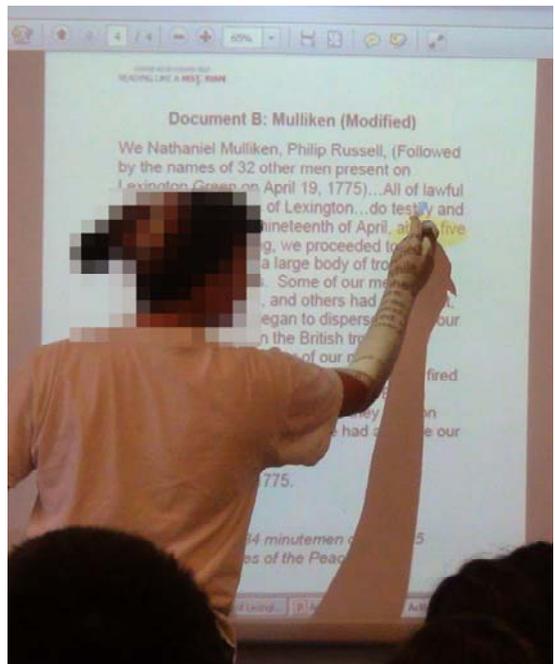
Ziegler 先生：わかったわ。じゃあ、1 人が 34 人を代表していることになっているのね。

生徒 (アーメン)：そうです。

Ziegler 先生：これは単なる彼の話かもしれないし、彼は責任者かもしれません。そこはわからないわ。でも、どういうことでしょう…、宣誓するというのは？

生徒 (アーメン)：彼らは…。

Ziegler 先生：みんな聖書や命や何かにかけて誓いますよね？ だから私が言いたいのは、この文書に対する信頼です。これを信用しますか？ 宣誓しているので信頼できるかもしれない。34 人が一緒になって話に同意



しているので信用できないかもしれない。ここに 34 人がいます。何かについて意見を一致させられますか？  
例えば、この前の金曜日に何があったか、1 分ごとに起きたことを厳密に合意できますか？

生徒：できません。

Ziegler 先生：できるわけありません。そうでしょう？

生徒（アーメン）：待って。これはあの 3 人の判事が…。

Ziegler 先生：彼らは治安判事、だから判事ですね。

生徒（アーメン）：わかりました。

Ziegler 先生：ですから、ここでメモを取るの、この文書を信用するかしないかについてです。いいですね。

生徒（アーメン）：わかりました。

Ziegler 先生：じゃあ、えー…、そう、そこに置いて。

わかったことは、これがこの宣誓書を必要とした理由だということです。彼らが宣誓したのは、これをヨーロッパにいたベンジャミン・フランクリンに送ろうとしていたからです。そして彼はこれを使って、そう、イギリスに落ち度があって、戦争になったのはイギリスのせいだということを証明しようとしてしました。ですから、これでまたこの文書をどう理解するか変わるかもしれません。

生徒（アーメン）：それは反対側にとっても同じことです。

Ziegler 先生：そうね、これに印をつけなきゃ。じゃあ、これを信用するかどうか考えましょう。えーこれは…

だし、だからこの問題を改めて考えてどう思いますか？ 彼らは誰が戦争を始めたかと言うと思いますか…、戦いを？

生徒：…。

Ziegler 先生：彼らはイギリス軍が始めたと言う。じゃあ、精読（close reading）をしてください。彼は精読の中で事実を訴えたくてうずうずしてます。ですから…。

生徒（アーメン）：たいしたことじゃないんですけど。

Ziegler 先生：いいわよ。

生徒（アーメン）：あの僕たちはただ…、僕たちは文書を比較しましたが、ひとつには 5 時頃に起きたと書いてあります。それからもうひとつの文書には 2 時頃と書いてあります。

Ziegler 先生：あら！ で、誰が正しいの？

【生徒はいっせいに話す。】

Ziegler 先生：別の方には、我々は始めたと書いてあって、それを 2 時としています。じゃあ 5 時には何が起きたの？

生徒：我々は到着した。

Ziegler 先生：彼らは到着した、ですね？ でもこれは、彼らは、5 時、我々はグリーンに向かって進んだと言っていて、そっちは、彼らは 2 時に前進したと言っています。ですから食い違いっていますね。すごいわ。今、彼が使ったのが実証というテクニックで、今週後半に取り組むつもりですが、2 つの文書を比較します。よくできました。いいですね。

じゃあ、今やって欲しいのは、この文書を同じようにうまく精読（close reading）することです。くまなく念入りに読んで、読みながら文書にマーカーを塗ってください。

【グループディスカッション開始】

《33:50》

〈机間巡視中の聞き取れた会話〉

Ziegler 先生：そこには、どんな風だったのかいろいろ書いてあるわ。精読（close reading）するということは、それがどのように書かれかを読むということを頭に置いてください。たいしたことじゃなかったとしても、一度無視してしまった内容のひとつでも、何かを感じさせるもののはずです。

はい、その通りよ。時間には食い違いがあります。

あら日付を調べてるのね。いいですね。あの、日付についても話し合ってください。一週間後だったわね？ なぜ戻ってきたのかしら？ そうね。じゃあ、この文書をどう思いますか？ どう思う…、この話は何を伝えようとしていると思う？ どんな風に感じることができる？ イギリス軍に落ち度があった。具体的には、彼はこの中の 1 行を選んで…しました。そうなの。それで…、彼らは実際に振り返って背中から彼らを撃った。そう、本当よ、でしょう？ そう、それを彼が選んだの。じゃあその部

分にマーカーを塗ってください。

そう、それは大事ね。そのとおり。もし誰かが…、もし背中を向けて立ち去ったときに誰かがあなたを撃つとしたら、それをどう思う？ 卑怯ですよね？ でしょう？

つまり、彼らがみんなそこを立ち去ろうとしていたら、突然振り返って彼らを撃つたということのようです。ずいぶん卑怯ですね。じゃあ、それをどう思うか考えてください。

いいですね。ずっと、ずっと良くなりました。

生徒：だから彼らはとてもイギリス人を責めています。

Ziegler 先生：彼らはイギリス軍を責めています。で、イギリス軍は何をしましたか？

生徒：彼らを責めています。

Ziegler 先生：大きな戦争の話だとしたらあなたたちは…、あなたたちは相手側を責めますか？

生徒：はい。でも僕が言ってるのは、彼らは…。

Ziegler 先生：その通りです、そう。

それは一致しないですね？ これが、もしかして朝のことを言っていると言えないなら、これは彼らがまだ…だということです。そう。だからこれらは…。

卑怯です。そうでしょう？ 卑怯。大変結構、結構。私たちが探しているのは…。



### 【グループディスカッション終了】

《37:30》

Ziegler 先生：いいですか。さあこれをもう少し解釈しますから、何人かに来てもらって重要なところにマーカーを塗ってもらいます。「我々、ナサニエル・マリケン、フィリップ・ラッセル、およびその他 32 名の男は現在グリーンにいる。全員法によって認められた年齢に達したレキシントンの住人であり、4 月 19 日朝 5 時頃、グリーンに向かって進軍したことを証言および宣言する」。さて彼はここでいくつかの単語を使っていますね？ 彼は証言および宣言しています。なぜ…、じゃあ精読 (close reading) について考えながら、なぜ彼はこの単語を選んだのでしょうか？ なぜ彼は証言および宣言と言うのでしょうか？ ゴードン？

生徒 (ゴードン)：それが事実だからです。

Ziegler 先生：彼はそれが事実であり公式なものだと言っています。そうですね？ つまり彼はこれが事実だと言っています。彼らは声明を出し、これらの正当性を述べています。「我々はグリーンに向かって進軍し、我々に向かって進んでくる大きな部隊に会いました」。さて、おもしろいことに、彼らは約 34 人の男たちであり、他に誰かがいるとはまるで言っていない。イギリス軍の兵士は何と言いましたか？

生徒：200 人と 300 人です。

Ziegler 先生：200 人と 300 人の人々。じゃあ、本当はそこに何人いたかわかりますか？

生徒：わかりません。

Ziegler 先生：そこには他の入植者もいたかもしれないし、女性がいたかもしれない。わかりません。でも、ここで数に関して何らかの食い違いがあることはわかります。

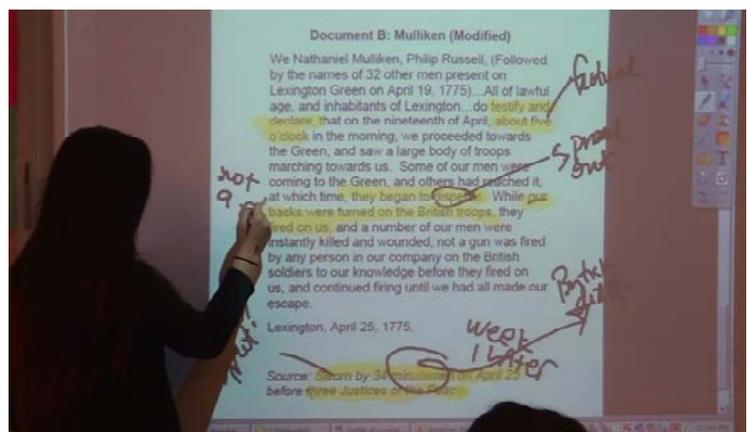
「我々の一部はグリーンに来る途中で、残りの者は到着していた。そんな時、彼らはばらばらになり始めた。」ばらばらとはどういう意味でしょうか？

生徒：広がること。

Ziegler 先生：広がること。そうですね？ ですからこの言葉は広がったという意味です。誰か先を読んで、この文書をどう思うかや、何が大切かについて、次の部分から重要な事実を挙げてください。誰かやりたい人は？

ありがとう、アイビー。じゃあ、アイビーと一緒に次を読んでください。これは何か？ 何が大切か？ マーカーを忘れてるわ。それでいいわ。どうぞ。まずそこを読んでくれる？

生徒 (アイビー)：私たちがイギリスの部隊に



背中を向けると同時に、彼らは私たちに発砲した。だから、それは公平な戦いではなかったみたいと感じさせます。なぜならもし後ろを向いて…。

**Ziegler 先生：**そう。メモを取って。いいでしょう。じゃあ、それはなんで…， そんな風に…， あまりそれは…， それはフェアな戦いではない。なぜでしょう？

**生徒：**彼らは準備していた。

**Ziegler 先生：**彼らは準備していた。ダニエルが彼らは卑怯だと言いました。つまり彼らが振り返って背中を向けて、それから彼らが撃ちました。それで彼らは発砲、つまり撃ち返せましたか？ おそらく無理でしょう。だからあまり公平とは思えません。いいですね。

さて、ここにもう一行あって、私たちの歴史的疑問に答えてくれます。誰かそれにマーカーを塗っていませんか？ 誰が先に発砲したか？ 誰が戦争を始めたかを教えてくれる部分はどこでしょう？ ありがとう、ハンナ。次の部分にマーカーを塗ってください。枠が全部埋まるようにしてね。マーカーはそこにあるわ。

**生徒 (ハンナ)：**ああ。

**Ziegler 先生：**それ…， それ…， それでいいのよ。

そのマーカーも使えるわ。じゃあ大きな声で読んでください。

**生徒 (ハンナ)：**我が隊の誰も銃を撃たなかった。そして彼らが発砲する前、また…。だから要するに、彼らはまったく銃を発砲しなかったと言っていて、でも彼らが発砲を始めた後もそれは言っていない。

**Ziegler 先生：**いいわ。じゃあ、私たちの歴史的疑問に答えを出す前に、彼らは誰が撃ったと言っているか？ イギリス軍ですね。次は青にします。いいわ。

さて、ここに1つの言葉、フレーズがあります。このことについて考えるとき、それが浮かび上がってきます。なぜ人は話す言葉を選ぶのかについて考えるときです。私が何の話をしているかわかりますか？

**【生徒はいつせいに話す。】**

**Ziegler 先生：**誰か発言したわね。ヴァレリー？

**生徒 (ヴァレリー)：**「自分たちの知る限りでは。」

**Ziegler 先生：**「自分たちの知る限りでは。」彼がそう言ったことがなぜ重要なのでしょう？

**生徒 (アンソニー)：**すべて知っているというわけじゃないからです。

**Ziegler 先生：**彼らは確信がない。そうですね？

彼らは、自分たちの知る限りで我々 34 人と言っていますが、それはありえますか？

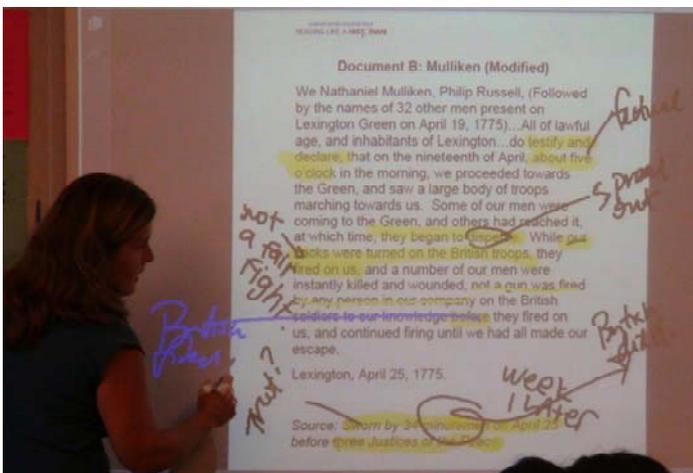
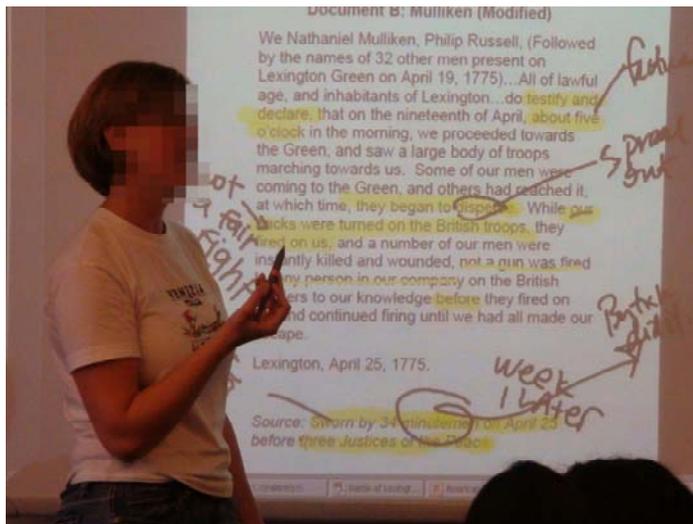
**生徒：**はい。

**Ziegler 先生：**可能性はあるでしょうね。つまり彼は知らないと言っています。ですからこれに疑問を持たなければなりません。そうですね？ 私たちは何が起きたかわかりますか？ というのは、彼は、自分たちの知る限りでと言っています。たぶん彼らは…， もしかしたらそうだったのかもしれませんが、彼らはわかりません。もしかしたら彼らは自分たちをかばおうとしているのかもしれませんが。そうでしょう？ もしかしたら彼らはイギリス軍が始めたことにしたいので嘘をついているのかもしれませんが。そうすれば戦争を正当化できます。私たちにはわかりません。それにこの最後の部分で、「我々は全員逃げた」とあります。さあ何が起きたかわかりますか？

**生徒：**彼らは逃げました。

**Ziegler 先生：**入植者たちは逃げた。これはもう一方の話と一致していますか？

**生徒：**はい。



**Ziegler 先生**：一致する。そうですね。2～3分時間を取って下の質問に答えてください。その後でこの頃の大変有名な画像を見せましょう。  
【グループディスカッション開始】 《42:15》

## Historical Question:

Who Fired the First Shots?

〈机間巡視中の聞き取れた会話〉

**Ziegler 先生**：そう、この質問に答えるだけよ。

で、どちらの方を信じる？

**生徒 (アンソニー)**：両方って言うてもいいですか？

**Ziegler 先生**：1つを選ばなきゃだめよ。どちらがより信頼できる？ いつも…、君たちは…、みんな両方は選べないわよ。1つ選ばなきゃ。そうでしょう？ あらマイク、1つ選ばなきゃだめよ。どちらが…、だから裏付け (corroboration) 探しを生かして、どちらがより信頼できると思うの？ 何？

**生徒 (マイク)**：イギリスの軍隊です。

**生徒**：長い文書の方。

**Ziegler 先生**：そうね。34人がひとりの男に宣誓したことを彼の日記に書いている。いいわ。どっち？ なぜ？ もしかして宣誓証言？ うーん、じゃあ彼らを信じるのね。あなたたちはどう思うの？

**生徒**：…。

**Ziegler 先生**：なぜ？

**生徒**：彼は宣誓していないから…。

**Ziegler 先生**：いいわ。覚えてる事実をまとめたのね。もちろんいいわ。

**生徒**：それとももしかしたら彼はただ…。

**Ziegler 先生**：いい指摘ね。私たちは彼の動機がわからないわ。そうでしょう？ 歴史上の証拠をもっと調べるなら、まずは、なぜ彼がそれを知っているか把握しなければならないわ。彼は彼の…を隠そうとしたのか、私たちにはわからない。そうね。でも彼の…、でもここで理由は大切なことよ。すばらしいわ。

あなたたちはどちらを信じるの？ じゃあ彼らを信じる、それとも信じないの？ 彼らを信じるのね。じゃあアレックスはイギリス人を信じる。あなたは入植者を信じるの？

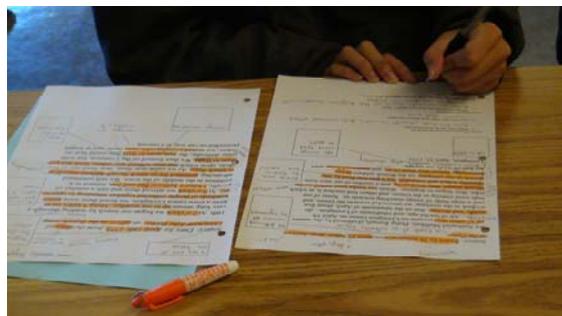
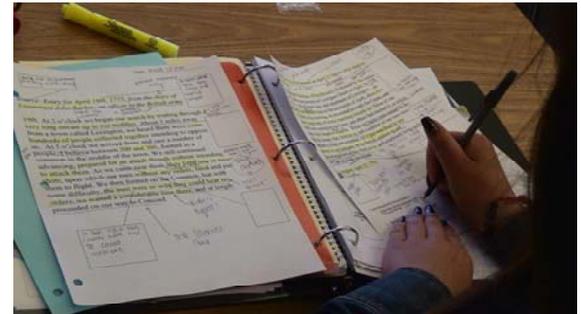
**生徒**：彼らの言葉ではわかりません。

**Ziegler 先生**：彼らが同意した事実についても考えてみてください。私たちはここで、わかっていることは何か確認を行います。最初に…、はい？ いいわよ。

いいえ、それが質問のひとつで、今答えるのよ。その通りよ。

そうです。つまりみんなだった、そうでしょう？ えーと、だから考えて…、これは…、マサチューセッツについて彼らが言っていることという感じです。マサチューセッツは植民地だったことを覚えてるでしょう？ それでイギリスの…とても簡単、あまり現実的じゃなかったとということ。

まったくその通り。そうでしょう？ つまり、それは罪だとわかっているから嘘をつきたくないという場合もあるけど、戦争を始めることも罪になる可能性もある。じゃあどっちがひどいかでしょうか。戦争を始めた人が、そして、もしかしたらその人がそんなことはしていないと嘘をついた…、わかるでしょう？ そう、それが要因かもしれない。その通りよ。



【グループディスカッション終了】

《47:30》

**Ziegler 先生**：手を上げてください。もしわかったら…、この文書両方に共通している事実を見つけたらすぐ教

えてください。その日に起きたことだと認めるのはどれですか？ ありがとう。

生徒 (マイク) : 入植者は逃げました。

Ziegler 先生 : 入植者は逃げた。その通りです。じゃあ、入植者が逃げたことにはみんな同意しますね。クリスチャン？

生徒 (クリスチャン) : 彼らはレキシントンにいました。

Ziegler 先生 : 彼らはレキシントンにいた。はい。これはみんな認めますね。彼らはレキシントン・グリーン (レキシントンの緑地) にいました。カーラ？

生徒 (カーラ) : 彼らは両方とも 5 時に着いた。

Ziegler 先生 : そう。5 時に何かがあった。彼らが到着したのね。5 時の部分は一致しています。アンソニー？

生徒 (アンソニー) : 戦争があった。

Ziegler 先生 : 戦争があった。さて、議論する部分についてですが、これはすごく重要ですよ？ 200 人だったか 300 人だったか、それとも大勢の人だったのか？ これは議論すべき問題で、共通していることではありませんね？ はい、ヘレン。

生徒 (ヘレン) : 入植者とイギリス軍はどう…。

Ziegler 先生 : 入植者とイギリス人は両方ともそこにいた、そうでしょう？ ここでわかります。場所はどう？ 私たちはみんな、彼らがどこにいるか意見が一致しています。

生徒 (ハンナ) : あー、私の意見は違います。

Ziegler 先生 : 大丈夫よ。彼らはみんなどこにいますか？ 彼らはみんなレキシントンにいます。で、あなたの意見は何？

生徒 (ハンナ) : イギリス軍が発砲した。

Ziegler 先生 : あー、それは…、それについて両方一致しているの？

生徒 (ハンナ) : はい。

Ziegler 先生 : イギリス人が発砲したこと？ 誰が最初に発砲したかはちょっとわからないわね。発砲があったことには同意できますか？

生徒 : はい。

Ziegler 先生 : 何ですか？

生徒 (アーメン) : 銃弾が発射されたと言いたいです。

Ziegler 先生 : 銃弾が発射された。それは認めますよね？ 銃弾が発射されたという事実はみんな認めますね。はい、いいです。

三番目の資料を見せましょう。これはとてもおもしろい資料で、これは…、これは実際はエッチングで、実は…、光を当ててください。では、これは…、そう、資料は 2 つあります。私たちは日記と宣誓書を見ました。次はこれを見てください。誰かこのエッチングが何かわかりますか？ あの、これはあなたたちみたいなの…。

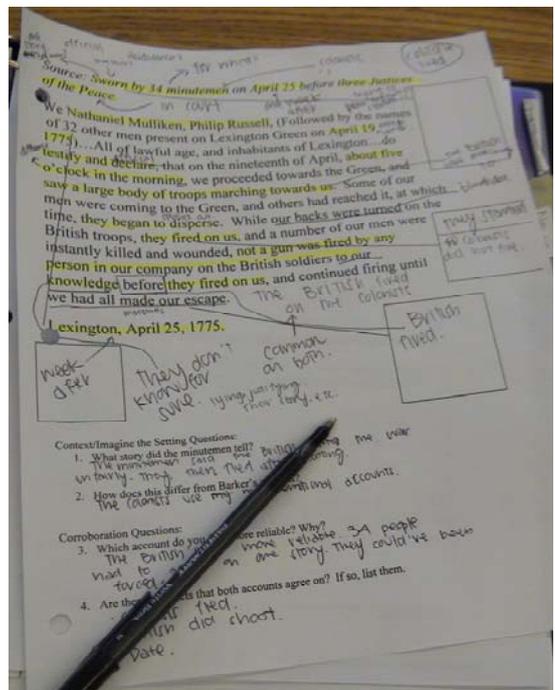
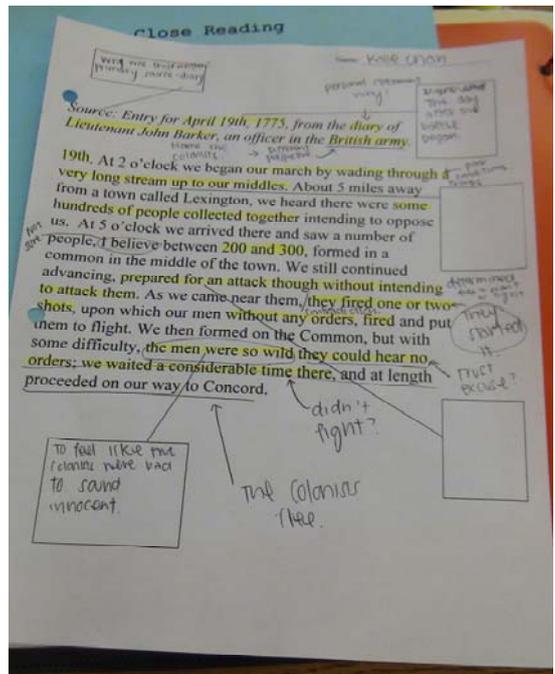
【生徒はいつに話す。】

Ziegler 先生 : そう、学校みたいですね？ じゃあこの日付はいつですか？

生徒 : 1775 年です。

Ziegler 先生 : レキシントンの戦いは何年でしたか？

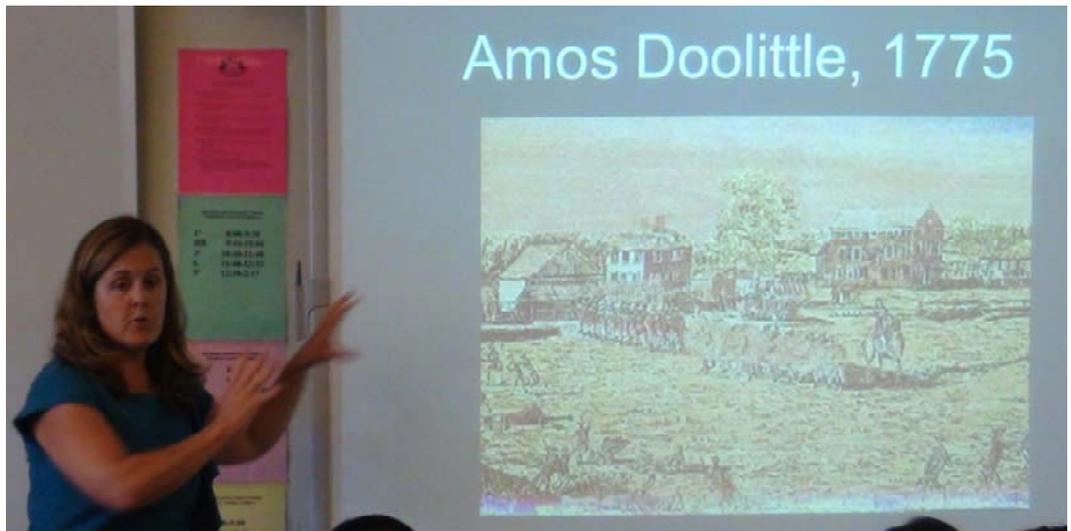
生徒 : 1775 年です。



**Ziegler 先生**：じゃあこれは、私たちの裏付け (corroboration) 情報や資料としてふさわしいですか？

生徒：はい。

**Ziegler 先生**：わかりました。誰か手を上げて、私たちが今調べた2つの資料に合致する事実をこ



こから見つけてくれませんか？ つまり裏付け作業 (corroboration) です。あそこで起きたことがこの絵の中で何が起きていると言えます。そこあるものを何でも言ってみて。アイビー？

生徒 (アイビー)：人が行進しています。

**Ziegler 先生**：行進している。そうですね？ 彼は行進したと言っているし、ここでもそうです。これはエッチングだからわかりにくいでしょう。でも、そう、ここに赤い上着が見えますね。これは誰を意味しますか？

生徒：イギリス軍です。

**Ziegler 先生**：イギリス軍。それといわば…、そこで何かおこっていますね？ そうね、行進しているのわかりました。私たちが読んだ文書と一致している事実は他には何でしょうか？ みんなが言ったことが1つあります。ハンナ？

生徒 (ハンナ)：逃げ出している。

**Ziegler 先生**：彼らは逃げている。エリック、逃げているところを指さしてくれる？

生徒 (エリック)：ここかな？

**Ziegler 先生**：真ん中はおちゃごちゃしてますね。彼らは逃げています。下の方を見て。そういうのを見つけられるかな？

生徒 (エリック)：まるで…。

**Ziegler 先生**：そうですね。

生徒 (エリック)：これは人間ですか？

**Ziegler 先生**：これはとっっても古いスケッチなのでほんとに難しいけど、これは…、これは現存する一番オリジナルの絵または芸術作品です。これは人みたいですが…、たぶんこれは銃を発砲しているんでしょうね？ 煙とそれから人が逃げているようです。ですからこれは私たちが知っていることと一致していますか？

生徒：はい。

**Ziegler 先生**：彼らは逃げていましたね？ 次に、これを見てください。

生徒：わあ！

**Ziegler 先生**：誰かこの裏付け (corroboration) 探しをしてくれませんか？ ありがとう、ティノ。

生徒 (ティノ)：あー、うーん。入植者は彼らが…、彼らは、つまり…。

**Ziegler 先生**：それは一致する？

生徒 (ティノ)：はい。

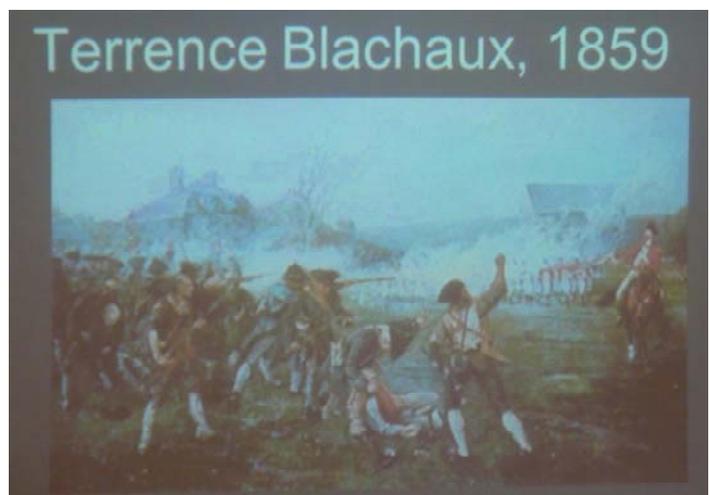
**Ziegler 先生**：じゃあ一歩引いてみてくれる？ そしてこの絵の日付を見てちょうだい。

生徒 (ティノ)：あっ！

**Ziegler 先生**：で、比べてみてどうですか？

生徒 (ティノ)：わかりませんでした。

**Ziegler 先生**：じゃあ、それは…、この絵の日付はレキシントンの戦いの日付と比べてどうですか？



【生徒はいつせいに話す。】

Ziegler 先生：ずっと後ですね？ では 1859 年のこの画家は…。

生徒（ティノ）：見えませんでした。

Ziegler 先生：1775 年に生きていて、レキシントンの戦いで何が起きたか見てこれを描くでしょうか？

生徒：描くかもしれません。

【生徒はいつせいに話す。】

Ziegler 先生：この時代の人々の平均余命がどれぐらいかわかりますか？ もし男だったら、35 歳ぐらいかな。つまり画家はもう死んでいるということでしょう？ そうでしょう？

生徒：親戚かも。

Ziegler 先生：それは一次資料と言えますか？

生徒：いいえ。

生徒：自分で描いていないなら。

Ziegler 先生：はい、ダニエル。何か気がついた？

生徒（ダニエル）：もし入植者が発砲した方なら、イギリス軍は進軍を主張します。

Ziegler 先生：あー！ 皆さん、ダニエルがこの作品から何を指摘したかわかりますか？

生徒：はい。

Ziegler 先生：どういうことでしょうか？

【生徒はいつせいに話す。】

Ziegler 先生：彼らはここに立っていますね？ そして彼らは…、彼らは逃げていますか？

生徒：いいえ。

Ziegler 先生：言うまでもなくこの絵では違いますね。じゃあ、どうなっていますか？

生徒：行進しています。

Ziegler 先生：でも何を持っていますか？

生徒：銃を撃っています。

Ziegler 先生：銃を撃った。発砲した。ですからここではイギリス軍が発砲しています。入植者は…、彼らはおびえて逃げたりしていません。彼らは堂々と立っていますが、この絵をもう一度見ると、もうひとつの方に戻って、1775 年にはどのように描いていますか？

生徒（ダニエル）：入植者は逃げています。

Ziegler 先生：入植者が発砲し、逃げている人もいます。そしてイギリス人がそこに立っています。ですからここで疑問が湧きます。テーブルにある文書を全部使って、それについて考えてください。画像で共通なのは何か、また違いは何か？

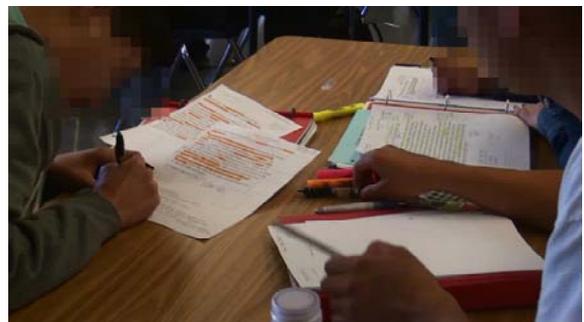
【グループディスカッション開始】

《52:30》

〈机間巡視中の聞き取れた会話〉

Ziegler 先生：画像が一次資料と共通しているのは何か、また違いは何か？ 質問はわかる？ じゃあ絵をもう一度見せます。さっきやったようにやってください。共通する 2 つのこと、異なる 2 つのこと。そう、そう、そう。いいですね。

発砲について議論してますね。日付について、誰が逃げたか、誰が撃ったか議論してますね。共通する 2 つのこと、異なる 2 つのこと…。



## Corroboration

- What do the images have in common with the primary sources?
- How do they differ from the primary sources?

【グループディスカッション終了】

《54:20》

Ziegler 先生：えー、アマデウスは、もしかするとこの絵は、たぶんこのために、入植者が立派に見えるようにするためにこの画家にお金を払ったという説を立てています。その可能性はありますか？

生徒（ダニエル）：はい。

Ziegler 先生：その通りです。知っているように画家の多くは支払いを受けて絵をかいていますから、実はアマデウスの言うとおりのことです。

生徒：おー！

**Ziegler 先生**：これは画家が描いたもので、レキシントン市…、コンコード市が、アメリカ独立革命はここで始まったと主張したかったのです。レキシントン市は、最初の戦いがここであったことを知っています。ですからこの画家にお金を払って、それが自分たちだと証明する絵を描いたのです。

生徒（ティノ）：いいですか？

**Ziegler 先生**：で、それはずーっと後で描かれました。

生徒（ティノ）：だから僕たちはいつもそうだと思ひ込むですね？ ですよ？

**Ziegler 先生**：ティノがとてもおもしろいことを言っています。ティノ、もう一度言ってくれない？ みんな彼の話を聞いて。

生徒（ティノ）：あの、画家がそれをそのように描いたから、つまり自然にというかそんな感じでそれが正しいというか。

**Ziegler 先生**：つまり画家がそれを描いたので、正しいに違いないということね？ えー、ティノの言う通りです。戦いの 100 周年記念として決めた…、150 周年かな、米国郵政公社はこう言ったの。「我々は切手を作る予定です。我々はアメリカ独立革命の切手を作るつもりですが、それは真実を伝えるものです」。どっちの絵を使ったと思う？ 切手を作るのにこの絵を使ったのでしょうか、それともこの絵でしょうか？

生徒：その絵です。

**Ziegler 先生**：これがその切手です。

生徒：ああ。

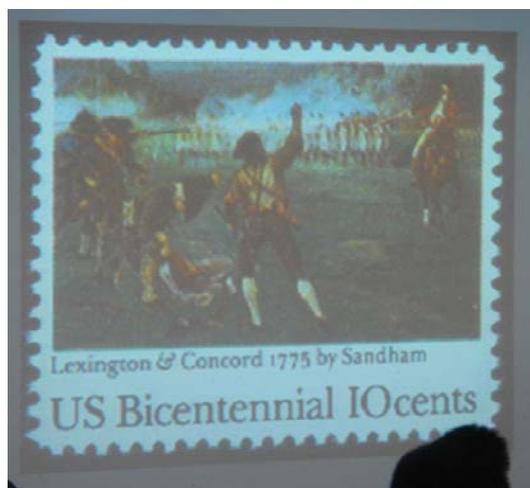
**Ziegler 先生**：だから、アメリカ人の多くが事実はこうだ、イギリス軍が最初に発砲して、アメリカ人はそこに立って、そして彼らは勇敢だったんだと思っているのはこれが原因です。それは知ってることだけど、実際アメリカ人はどうしましたか？

生徒：逃げました。

**Ziegler 先生**：逃げましたね。でも歴史的事実はまさにティノが言った通りになっています。じゃあ、あまり時間をかけずに裏側の質問に教えてください。

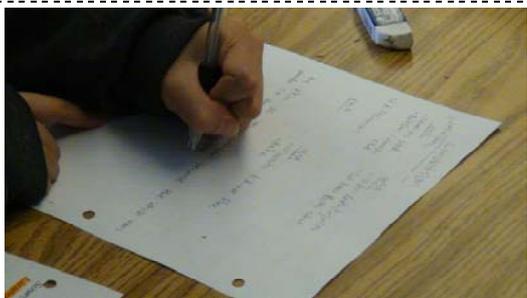
【グループディスカッション開始】

《55:50》



〈机間巡視中の聞き取れた会話〉

**Ziegler 先生**：えー、わかっている唯一のことは、実は…、彼らは逃げたということで、これらの絵は両方、そう、元の絵は彼らが逃げるのを描いているからその絵を残しておかなければなりませんね。恐らくそっちの方が正確です。本当はどうだったのかわかっているのかって？ もちろんわかりません。さらに多くの資料が必要です。



【グループディスカッション終了】

《56:50》

**Ziegler 先生**：最後の問題です。最後の問題を残り 2 分で一緒にやります。どっちの絵の方が信頼できると思うか、それはなぜか教えて欲しいの。1775 年に描かれた方、エッチングですか、それとも 1859 年に描かれた方ですか？

生徒：1775 年です。

生徒：エッチングです。

**Ziegler 先生**：でも、1925 年に記念のために使ったのは切手ですよ。だから彼らは、この方が信用できるはずだと思ったわけです。

生徒：それは違います。

**Ziegler 先生**：そう思う？ こっちの方が信用できるか、それともこっちか、そしてなぜか？ それが終わったら…、その問題に答えたら、提出してもらいたいのは民兵が書いてあるこの紙だけです。かごに入れてください。

《58:00》

Source: Entry for **April 19th, 1775**, from the **diary of Lieutenant John Barker, an officer in the British army.**

19th. At **2 o'clock** we began our march by wading through a very long stream **up to our middles.** **About 5 miles away** from a town called Lexington, we heard there were **some hundreds of people collected together intending to oppose us.** At **5 o'clock** we arrived there and saw a number of people, **I believe between 200 and 300**, formed in a common in the middle of the town. We still continued advancing, **prepared for an attack though without intending to attack them.** As we came near them, they fired one or two shots, upon which **our men without any orders, fired and put them to flight.** We then formed on the Common, but with some difficulty, the **men were so wild** they could hear no orders; we **waited a considerable time** there, and at length proceeded on our way to Concord.

*Handwritten notes:*  
 - a big part of the text  
 - Name: John Barker  
 - Primary source  
 - must have a person  
 - happened the day after  
 - blame colonists  
 - because poor conditions upon a large troop  
 - contradictory  
 - didn't initiate the fight  
 - Savage, animal-like  
 - Savage vs civilized

Source: **Sworn by 34 minutemen on April 25 before three Justices of the Peace.**

...in front of an authority figure  
 ...we Nathaniel Mulliken, Philip Russell, (Followed by the names of **32 other men** present on Lexington Green on April 19, 1775)... All of lawful age, and inhabitants of Lexington... do **testify and declare**, that on the nineteenth of April, about five o'clock in the morning, we proceeded towards the Green, and saw a large body of troops marching towards us. Some of our men were coming to the Green, and others had reached it, at which time, they began to disperse. While our backs were **turned on the British troops, they fired on us**, and a number of our men were **instantly killed and wounded, not a gun was fired by any person in our company on the British soldiers to our knowledge before they fired on us, and continued firing** until we had all made our escape.

*Handwritten notes:*  
 - 7 days after  
 - 34 Minutemen  
 - must have been an agreement  
 - British were the first to fire, maybe?  
 - didn't shoot  
 - British = ruthless, wouldn't stop shooting  
 - no escape would lead to death  
 - 200/300  
 - stop shooting  
 - Lexington, April 25, 1775.

Context/Imagine the Setting Questions:  
 1. What story did the minutemen tell?  
 British shot first, colonists ran away, British continued attack  
 2. How does this differ from Barker's account?  
 colonists shot first

Corroboration Questions:  
 3. Which account do you find more reliable? Why?  
 British bc colonists swore so that Benjamin Franklin could go against the British in England  
 4. Are there any facts that both accounts agree on? If so, list them.  
 escape of colonists, date, and time

Birth of Liberty by Henry Sandham, 1886



[http://www.mce.k12tn.net/revolutionary\\_war/lexington.gif](http://www.mce.k12tn.net/revolutionary_war/lexington.gif)

## 《資料A : ベーカー》

19th. At 2 o'clock in the morning we began our march by wading through a river that came up to our middles; after going a few miles we came to a town called Lexington. We heard there were hundreds of people gathered there who planned to oppose us. At 5 o'clock we arrived and saw a number of people, between 200 and 300, formed in a field (Lexington Green) in the middle of the town.

We continued marching, keeping prepared against an attack though without intending to attack them. On our coming near, they fired one or two shots. As soon as that happened, our men without any orders, rushed in upon them, fired and put them to flight.

We regrouped, but with some difficulty because our men were so wild they could hear no orders.

Source: Entry for April 19, 1775, from the diary of Lieutenant John Barker, an officer in the British army; R. H. Dana, Jr., A British Officer in Boston. *The Atlantic Monthly*, 39, 1877, 389-401.

19日の午前2時、我々は川をわたり行進を始め、レキシントンという町にあと数マイルのところにとどり着いた。そこには我々の敵が何百人も集まっていた。5時になると我々はレキシントンに到達し、町の中心部に集まっている200～300人の人々を見た。我々は攻撃に備えながら彼らを攻撃することなしに行進を続けた。しかし、我々が近づくと、彼らは1～2発ほど銃を撃ち込んできた。そのとたんに、我々も命令なしに駆け出し、銃を撃った。我々は編成を立て直そうとしたが、我々はひどく興奮して命令を聞くことは難しかった。

出典：1775年4月19日、イギリス軍中尉ジョン・ベーカーの日記から。

## 《資料B : マリケン》

We Nathaniel Mulliken, Philip Russell (followed by the names of 32 other men present on Lexington Green on April 19, 1775) All of lawful age, and inhabitants of Lexington, do testify and declare, that on April 19th, at about 1 or 2 am, we were told that British soldiers were marching from Boston towards Concord.

We were ordered to meet at the field at the center of town [Lexington Green], where we were told by our captain to go back home, but to be ready to come back when we heard the beat of the drum. We further testify and declare that about 5 o'clock in the morning, hearing our drumbeat, we returned, and soon found a large body of troops marching towards us.

At that point, some of our group was making its way toward Lexington Green, and others had reached it. Our men began to disperse [leave]. While our backs were turned on the [British] troops, we were fired on by them, and a number of our men were killed and wounded. To our knowledge, not a gun was fired by any person in our group on the British soldiers before they fired on us. The British continued firing until we had all made our escape.

Source: Lexington, April 25, 1775, Nathaniel Mulliken, Philip Russell, [and the 32 men] [Duly sworn to by 34 minutemen on April 25 before three justices of the peace]; C. C. Sawtell. *The Nineteenth of April, 1775: A Collection of First Hand Accounts* (Lincoln, MA: Sawtells of Somerset, 1968).

我々が散り散りになりはじめると、我々の背中に向かって彼らは銃を放ちました。そして我々の多くは殺され、傷つきました。我々の知る限りでは、イギリス兵が我々を撃つ前に、イギリス兵に銃を撃った者は我々の中には決しておりませんでした。我々の仲間が誰もいなくなるまで、イギリス兵は銃を撃ち続けていました。

出典：3人の判事の前で1775年4月25日に行われたN.マリケンら32人の民兵による宣誓供述から。

我々、ナサニエル=マリケン、フィリップ=ラッセル、(その他、1775年4月19日にレキシントンにいた32人の男性の名前が続く)は次のように証言します。

4月19日の朝1～2時に、英国の兵士たちがボストンからコンコードに向けて行進していると聞きました。我々は指揮官から帰るように言われたので、ドラムの音が聞こえたら町の中心の広場に集まることにして家に帰っていました。朝5時にドラムの音を聞いて戻ってみると、私たちに向かって大きな部隊が行進してくるのが見えしました。その時点で、我々の仲間はレキシントンに向かっている者もいましたし、すでにレキシントンに着いている者もいました。我々

## 2. 実践者 Ms. Valerie Ziegler の紹介

彼女は、米国カリフォルニア州サンフランシスコのサンセット地区にある公立総合高校であるリンカーン・ハイスクールで、米国史、経済学、AP 米国政治を教えている。2010 年にはカリフォルニア州教育省より、その年の Teacher of the Year の一人に選ばれると共に、権威あるギルダー・レアマン米国史研究所より、同年のカリフォルニア州 History Teacher of the Year にも選出されている。

また、彼女はスタンフォード大学のワインバーグ教授 (Sam Wineburg) の主宰するスタンフォード歴史教育グループ (Stanford History Education Group) - 彼の指導する大学院博士課程の学生や修士生等が中心となって、米国史や世界史に関する教材・資料集、授業計画や評価法などを開発しインターネットを通じて無料で公開している (<http://sheg.stanford.edu/> を参照) のメンバーとして、ワインバーグ教授等の提唱する歴史教授法 Reading Like a Historian を熱心実践していることでも知られる。なお、同グループでは、Ms. Valerie Ziegler を含む指導的メンバーの歴史授業の様子や彼/彼女らの歴史授業に対する考え方などを動画でも配信している。併せて参照することを勧めたい (<https://www.teachingchannel.org/videos/reading-like-a-historian-curriculum>)。

## 3. Reading Like a Historian の方法

Ms. Ziegler の推進する Reading Like a Historian とは文字通り「歴史家のように読解する」ことを指すが、提唱者のワインバーグ教授はこれについて以下のように述べている。

「Reading Like a Historian とは、単なる読解の方略だけを指すのではなく、史料分析の思考や懐疑全体を指している。歴史家は、歴史文書を読む時には絶えず著者の仮説、解釈、偏見、パースペクティブや目標について考えをめぐらせながら、文脈、偏見、目的の証拠を探ろうとしている。これに対し、たいていの生徒は内容や個々の事実の方に関心もっており、文書を読む時にもそれが客観的なものとみなしがちである。Reading Like a Historian とは活発な探究によって身に付くプロセスであり、自然に任せて身に付くものではない。」 (*Reading Like a Historian: World History Toolkit*, Holt, Rinehart and Winston, p.vii)

ワインバーグ教授は、Reading Like a Historian の考え方に基づく歴史の読解力育成方法について「歴史的な認知訓練 (認知的徒弟 cognitive apprenticeship) モデル」と称している。一体、それはいかなるものなのか。具体的なプロセスを探ってみよう。

### ○第1段階：教師が模範を示す。

史料を読解する際に考えたことを口に出す (thinking aloud) ことで熟練の問い方や読解の技法を示すことができる。

[方略1] 文書の出所 (典拠) を明らかにする。

- ・著者は誰か。著者はどのような特定の信念や偏見を持っていると見なされるか。
- ・この主題について君たちが既に知っていることは何か。
- ・なぜこの文書が作成されたのか。

[方略2] 問いを書き出し、答えを見つける。

- ・既にある予想 (仮定) に基づいて、いくつかの問いを書き出さない。
- ・文書を声に出して読みなさい。
- ・さらに続けて文書を声に出して読みなさい。

[方略3] パースペクティブを理解する。

- ・私は著者について何を知っているか。また著者の時代や場所についていかなる背景情報を知っているか。
- ・著者の議論はどんな構造になるか。私は著者の立場を言うことができるか。著者はどのように問題を設定 (議論を構築) しているか。著者の議論は健全なものに見えるか。
- ・どんな形の証拠を著者は用いるか。どうしたら私は証拠をチェックできるか。著者が無視している証拠は何かあるか。

[方略4] 著者に対する質問を書き出す。

### ○第2段階：教師指導下での生徒の実践

生徒の史料分析を教師が支援する。

[方略5] 教科書の該当ページを前もって概観する。

[方略6] 2人1組で考えを分け合う。

[方略7] グラフィック・オーガナイザーを活用する。

### ○第3段階：生徒単独での（自立的）実践

探究方略を模倣しながら、自ら史料を読み解く。

【方略8】 2人1組で考えを分け合う。

【方略9】 歴史の記述（物語り）を作成する。

ワインバーグ教授のこのモデルには、スキヤフォールディング（scaffolding）の考え方が反映している。スキヤフォールディングとは、ヴィゴツキーの「発達の最近接領域論」をヒントにJ.S.ブルーナーらにより提起された概念（supportのメタファー）で、直訳すれば「（建築用の）足場」となる。だが、スキヤフォールディングは単なる支援 supportとは異なり、より高次の概念や技能の獲得に挑戦するための方略であり、やがては教師の支援なくとも自立できるようにするのが最終的なねらいである。（Rob Phillips, *Reflective Teaching of History 11-18*, Continuum, pp.26-28）

ちなみに、Ms.Ziegler はあくまで実践家であり、基本的に上記のアプローチを支持しながらも、自己の判断で歴史授業を展開している。その際に、重視するのが史料の読解であるのはいうまでもない。ワインバーグ教授等は、この方法を広めるための方策として同名の教材開発事例集（Sam Wineburg, et.al, *Reading Like a Historian: Teaching Literacy in Middle and High School Classrooms*, Teachers College, Columbia University, 2011）

### 4. 教材開発事例集としてのReading Like a HistorianとMs.Zieglerの歴史授業

教材開発事例集としての *Reading Like a Historian* の2011年版には下記の8つの単元事例が掲載されている。

章（教材）	米国史単元	核となる問い	歴史的思考概念	教授方略
1 ポカホントス	探検と植民	ポカホントスはジョン・スミスを救ったか？	歴史 vs 神話	探求授業
2 レキシントンの戦い	アメリカ革命	レキシントンで何が起こったのか？	出所を問う； 根拠付け	イメージ分析； 根拠付けの明示的指導
3 リンカーン	南北戦争	リンカーンは人種主義者か？ 我々は過去をいかに判断すべきか？	出所を問う； 文脈化	学問的論争； 文脈化の明示的指導
4 コロンブス	移民(19世紀後期)	1492年と1892年； どちらが最も重要か？	出所を問う； 文脈化	政治漫画の分析； 文脈を確立する授業
5 エジソンとテクノロジー	1920年代	電気と女性の仕事； 真に利益を得たのは誰？ いつ？	出所を問う； 確証と一般化	インターネット活用授業； 確証する授業
6 ダストボウル	1930年代／ 大恐慌	何がダストボウルを引き起こしたか？ どんな物語が語られたか？	ナラティブ； 物語と原因の複合性の考察	教科書を開く授業
7 ローザ・パークス	公民権運動	どこでローザパークスは抗議したか？ モントゴメリーのバスボイコットはなぜ成功したか？	ナラティブ； 問うことの意義	生徒の記述や法的文書の分析
8 キューバ・ミサイル危機	冷戦	「もう一人の男が瞬きしていた」ために第三次大戦は防がれたのか？	ナラティブ； 教科書，証拠， 変化する物語	教科書を開く授業， 異なる教科書の物語の比較

上記の Ms.Ziegler による授業記録は、この教材開発事例集第2章「レキシントンの戦い」を取り上げたものである。日本では、高等学校の世界史の授業で、アメリカ独立戦争の発端となった戦争として取り上げられるが、英国軍と植民地民兵とが衝突したというだけで、具体的な様相にまで触れない。実は、米国でも長い間、神話化された独立革命の物語—植民地側に非はなく、英国側の攻撃に対して民兵が勇敢に応戦したというものを教科書でも記述し、それに疑問を持つことなく教えてきたという。だが、少なくとも歴史家であれば、それぞれの異なる立場からの一次史料を吟味して、戦いの真相に迫るであろう。ワインバーグ教授や Ms.Ziegler は、この方法をレキシントンの戦いの学習にも応用すべきだと考えるのである。

具体的には、この授業記録に明らかなように、英国側の将校バーカーの日記（衝突の起きた1775年4月19日

の日記)、植民地側の民兵 N・マリケン、P・ラッセル他 32 人の証言の記述内容を批判的に分析し、事実は何であったのか(レキシントンで何が起こったのか?)に迫っていく。そして、二つの史料分析を踏まえて、最後にこの戦いについて衝突の起きた 1775 年に描かれた絵画と、100 年ほど後の 19 世紀後期に描かれた絵画を比較し、民兵の描き方の違い— 1775 年のものでは逃げ惑い、19 世紀後期のものでは堂々と戦っている(教材開発事例集の第 2 章のタイトル "Standing tall" or Fleeing the Scene? はそれを如実に示している。)—に着目させ、独立戦争 150 周年記念切手(1925 年)の図柄には、1775 年の絵ではなく 19 世紀後期の絵が採用された事実を通して、歴史の神話化がなされたことに気づかせている。

このように、レキシントンの戦いを歴史家のように読解する意義として、大きく次の 3 点が指摘されている。

- ①過去について何を知り得、何を知り得ないのかを教える機会となる。(あくまで証拠に基づいて判断することの重要性に気づかせる。)
- ②どのようにして神話が歴史に織り込まれていくのかを探求する機会となる。(著者の動機を探ったり、現在のニーズから歴史を再審査したりすることの意義に気づかせる。)
- ③絵画史料を活用する際の留意点に気づく機会となる。(生徒はややもするとリアリティを感じさせる絵画の方を真実と見ながちであるが、時に現実はそれとは逆のこともある。)

— Sam Wineburg, et.al, *Reading Like a Historian: Teaching Literacy in Middle and High School Classrooms*, Teachers College, Columbia University, 2011, pp.17-31 を参照 —

## 5. これは社会科の授業なのか?

歴史家のように読解する Reading Like a Historian の歴史授業は、歴史学研究の方法を歴史教育に応用しようとするものであり、それは歴史学教育たり得ても、市民的資質の育成を目指す社会科の授業とはとえないのではないか。そんな疑問をもたれる方もいよう。かくいう私自身、当初はそれに近い見方をしていた。

だが、そもそも市民的資質とは何なのか? 社会の公共的な出来事に主体的に参画し、自らの意思決定に対して責任を負うことではないか。歴史認識をめぐって鋭く対立しがちな現在の日韓関係・日中関係の例を出すまでもなく、「歴史」は市民にとって決して他人事ではないし、単なる過去の物語りでもない。歴史家に委ねて済む問題ではなく、まさに市民一人ひとりが決断と対応を迫られる極めて現在の政治的なイシューなのである。

だとすれば、歴史教育は単なる過去の事実を扱うのではなく、過去を通して現在、そして未来と向き合うものでなければならないだろう。では、どう市民が過去と向き合えばよいのか。どう、向き合うことができるのか。おそらく通常は学校での歴史教育(歴史教科書)を除けば、歴史的遺物・遺産の見学、歴史小説や歴史ドラマの鑑賞などを通して、歴史と向き合うことが多いのではないか。多分に主観的・感性的・部分的な歴史認識の集合としてしか、歴史をとらえていないことになる。他方、学校では教科書に記載された大量の知識を、時間の順に一つの流れとして教えられ、学ぶことが主であり、なぜそういう流れになるのか、他の流れはないのか、そもそも歴史の流れは存在するのか、といった歴史事象や歴史の本質に迫る問いを議論することはほとんどないだろう。こうした歴史との向き合い方で、激しく対立し合う近隣諸国のみならず、今は同盟国とみなされている米国などの欧米諸国とも市民として対等に議論することができるだろうか。はなはだ心許ないと言わざるを得ない。

原理主義的な社会科教育研究者は、地理や歴史の教授を不要視する。現在の社会(問題) どう向き合うか、それとの関連でのみ地理的・歴史的学习を位置付けるべきだという。私も歴史の通史的教授や地誌の教授は不要だと考えるが、歴史的学习は重要だと思う。それは歴史家的思考が市民にも不可欠だからである。歴史家が過去(の真実)に迫る方法は、市民が現在・未来の社会(のあり方)を考える上で大きな力となる。例えば歴史家は徹底的に史料を集めて厳しく分析・検討(史料批判)し、その上で論理的に可能な過去を仮説として再現する。それは学会等の場を通して吟味にさらされ、それをくぐり抜けたものがその時点での定説となる。無論、わからないことの方が多し、定説とみなされたものが覆ることもある。扱う対象は過去であっても、扱う方法は現在のものである。つまり、そこには尽きることのない過去と現在の対話がある。

市民も同様である。例えば、原発の問題を考えてみよう。これまで原子力や科学に関心を持つ一部の者を除けば、自らの問題として考える市民は少なかったのではないか。政府や電力会社の説く安全神話を盲信していたというより、厄介なことは専門家に任せて(考えたからといって変わるものではないし)、敢えて自らは考えようとしなかったのである。だが、福島事故はそうした市民のあり方を根底から揺り動かすことになった。一人ひとりの市民が深く考え決断しなければ、結局最後は市民が泣くことになる。だとすれば、できる限りの方策を講じて情報を集め、市民同士、あるいは専門家も交えて議論し、原発を含めたエネルギー政策をどうすればよいのか知恵を出し合うしかない。無論、わからないこともたくさんあるが、わかる範囲で自ら決断し責任を負うので

ある。そこには、いわば尽きることのない現在と未来との対話がある。思考の方法論として、歴史家と市民との間に違いはないことに気づかされよう。

こうした点で、私は **Reading Like a Historian** の歴史授業は社会科の授業に他ならないと考える。社会科という名の教科があるから、市民的資質の教育がなされているのではない。生徒が歴史解釈の主人公として過去（史料）と向き合い、その妥当性を生徒同士、あるいは教師と共に議論していくからこそ、市民的資質が育つのである。**Ms.Ziegler** は米国の建国神話ともいべきレキシントンの戦いを取り上げ、植民地民兵の愛国的行動とみなされてきた歴史認識を史料批判を通して再審にかけ、歴史の本質に迫らせている。まさしく典型的な社会科の授業とってよいだろう。

## 6. Abraham Lincoln High School 情報



○ Abraham Lincoln High School の Web ページ <http://www.lincolnhigh.net/>

○ Abraham Lincoln High School の Web に掲載されている Ms.Ziegler の自己紹介ページ,

<http://lincoln.newhs.net/faculty/vziegler/>

## 7. Reading Like a Historian 情報

- Dr. Sam Wineburg 主宰の Stanford History Education Group の Web ページ [http://sheg.stanford.edu/home\\_page](http://sheg.stanford.edu/home_page)
- Reading Like a Historian の Web ページ <http://sheg.stanford.edu/rlh>。ここから Reading Like a Historian のイントロダクション資料、合衆国史および世界史の範囲を網羅した具体的カリキュラムと単元・授業のプラン、使用する資料等が入手できる。ちなみに、ここで紹介した Ms.Ziegler の Battle of Lexington についての資料は <http://sheg.stanford.edu/lexington> に掲載されている。
- Reading Like a Historian に関連する書籍としては、Sam Wineburg, et.al, *Reading Like a Historian: Teaching Literacy in Middle and High School Classrooms*, Teachers College, Columbia University, 2011 がある。ツールキットとして、*Reading Like a Historian: World History Toolkit* および *Reading Like a Historian Toolkit for American History* が Holt Rinehart and Winston より刊行されている。
- Sam Wineburg, et.al, *Reading Like a Historian: Teaching Literacy in Middle and High School Classrooms* における Battle of Lexington についての記述については、  
<http://history500uic.wikispaces.com/file/view/reading+like+a+historian+-+ch+2+-+lexington+green.pdf>  
に掲載されている。  
ちなみに、当該書のイントロダクションは、  
<http://history500uic.wikispaces.com/file/view/reading+like+a+historian+-+intro.pdf>  
第3章 Lincoln in Context については、  
<http://history500uic.wikispaces.com/file/view/reading+like+a+historian+-+ch+3+-+lincoln.pdf>に掲載されている。
- その他の Reading Like a Historian に関連する Web ページとしては、ティーチング・チャンネルのページに、動画で Ms.Ziegler を含めた数人実践者の授業風景やコメント等が紹介されている。  
<https://www.teachingchannel.org/videos/reading-like-a-historian-curriculum>  
ちなみに、ティーチング・チャンネルでは、Reading Like a Historian の授業風景をビデオで 10 事例紹介している。  
[https://www.teachingchannel.org/videos?page=4&categories=subjects\\_history-social-sciences&load=4](https://www.teachingchannel.org/videos?page=4&categories=subjects_history-social-sciences&load=4)  
また、教育誌 Education Week (2012 年 7 月 30 日) の Web 版では、Reading Like a Historian の紹介とともに、Ms. Ziegler を含めた数人実践者のコメントを紹介している。  
<http://www.edweek.org/ew/articles/2012/07/30/37socialstudies.h31.html>
- Reading Like a Historian の実践に関する分析書としては、Avishag Reisman 氏が 2011 年 3 月にスタンフォード大学に提出した博士論文 READING LIKE A HISTORIAN: A DOCUMENT-BASED HISTORY CURRICULUM INTERVENTION IN URBAN HIGH SCHOOLS がある。これは、実際の授業実践に言及した質的研究書でもある。  
[https://stacks.stanford.edu/file/druid:vv771bw4976/Reisman\\_Dissertation\\_ReadinglikeaHistorian-augmented.pdf](https://stacks.stanford.edu/file/druid:vv771bw4976/Reisman_Dissertation_ReadinglikeaHistorian-augmented.pdf)

《本資料で紹介した Abraham Lincoln High School での授業の収集については、

Dr. Sam Wineburg および Ms. Ziegler のご厚意に心から感謝したい。》